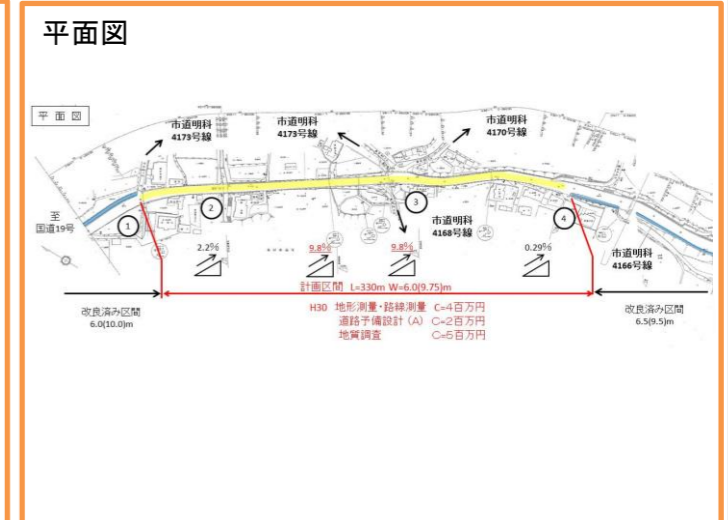
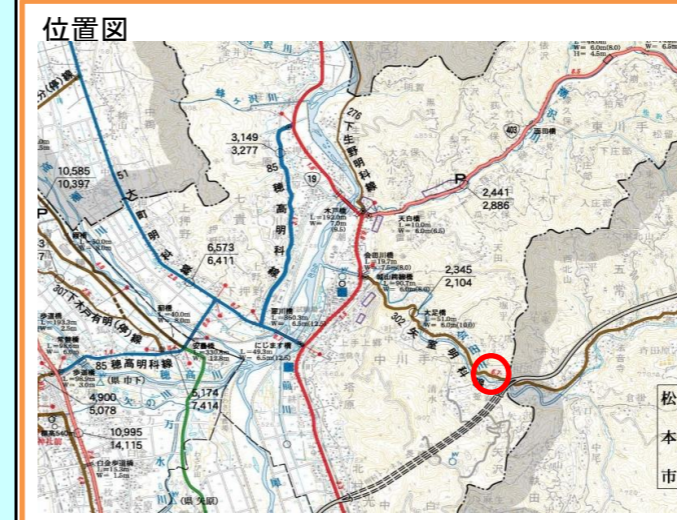


(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(一)矢室明科線		
事業毎の通番	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	大足(おおあし)		
事業目的	当路線は、松本市四賀地域と安曇野市明科地域を結ぶ路線で、四賀地域から明科地域を移動する通勤利用が多い。また、明南小学校の通学路に指定されており、通学児童はスクールバスを利用している。バス停のある当該区間について、未改良区間となっており歩道もないため、円滑な道路交通の確保と歩行者の安全を図る必要がある。このため、道路改築事業により円滑な道路交通を確保するとともに、歩行者の安全を図りたい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 人をひきつける快適な県づくり(生活を支える地域交通の確保)	事業実施の根拠法令等	道路法			
関連する事業、計画等	通学路安全プログラム(H27) 信州みちビジョン I-(1)-② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量：2,395台/日					
着手年度	西暦2020年度(R2)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	西暦2025年度(R7)	費用対効果	1.0		国庫	その他
全体事業内容(主な工種)	・道路改築工 L=330m W=6.0(9.75)m			200,000		180,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 2,000万円				
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進				
評価の視点	必要性	○計画交通量：2,404台/日 ○代替道路の有無：なし(30分以上の迂回) ○医療・福祉・教育施設との連携：社協デイサービスセンター、明科福祉センターとの連携が発揮できる道路 ○観光振興・地域の活性化：明科地区の活性化に資する				評価 A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン、通学路安全プログラム(H27)、信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定：避難経路となる路線(安曇野市地域防災計画に緊急輸送関係として位置付け) ○地域指定：積雪地域				評価 A
	効率性	○費用便益比(B/C)：1.04 ○事業期間：6年間 ○工法等の比較検討：今後検討 ○他事業との連携：他事業との連携はない				評価 B
	緊急性	○近年の交通事故件数：1件(H22) 人or自転車×自動車事故発生 1件以上 ○道路環境改善：危険箇所の該当はなし ○歩道整備：通学路対策(スクールバス路線) ○現況の車道幅員、半径、勾配：車道幅員5.0(6.0)m				評価 B
	計画熟度	○事業情報の共有：今後予定 ○地域の取り組み：安曇野市、大足区から要望あり。区長及び沿線地権者15名から同意書がある(H27) ○地域の合意形成：安曇野市、大足区から要望あり。区長及び沿線地権者15名から同意書がある(H27) ○住民との協働：住民関与が未定 ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:事後評価5-1				評価 B
所管課意見	必要性、重要性が高いことから、事業着手することが妥当であると判断する。				採択状況	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

【位置図、平面図、構造図等】



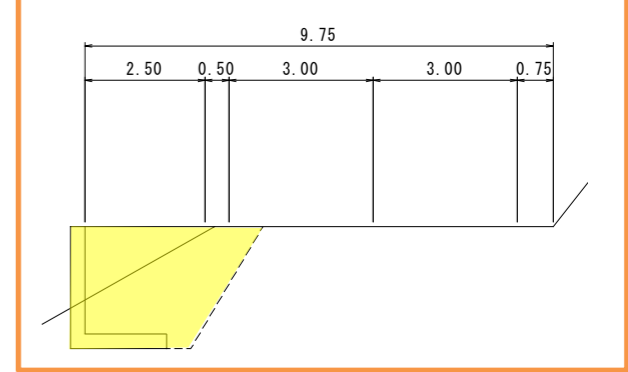
事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】

現道状況 (線形不良、幅員狭小)



構造図、完成予想図等



事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	矢室明科線は、安曇野市と松本市四賀を結ぶ区間に位置し、通勤車両が多く走行する路線となっている。通勤通学や駅、福祉施設への一次アクセス路として利用されている。当該区間においては、集落内の通過し幅員狭小であり、安全な通行、通行車両の円滑な走行に支障が生じている。		
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	明南小学校のスクールバスが送迎をしており、平成27年通学路安全点検を実施している。このため、歩行者の安全な歩行空間の確保を要望されている。		
③事業説明等の経緯	今後、計画説明を行う予定。		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	安曇野市道路整備推進事業計画では当該区間の整備が位置づけられている。通学路安全プログラム(H27)において、市教育委員会と合同点検を実施している。		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	現道拡幅により、車道幅員の確保と歩道を設置するもの。自然環境への影響は少ない。また、生活環境への影響に対しては、今後、測量設計を進める段階で合意が得られる工法等に配慮する。		
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により集落内の道路の交通安全、交通の円滑化が図られ、安曇野市明科地区の地域活性化も期待される。		
⑦その他	コスト縮減については、設計段階で検討予定		
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 20' 55.4" 東経:E 137° 56' 48.5"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(主)飯山妙高原線				
事業毎の通番		市町村名	上水内郡信濃町	箇所名(ふりがな)	熊坂(くまさか)			
事業目的	(主)飯山妙高原線は、飯山市を起点として、飯網町信濃町を経由し、新潟県妙高市とを結ぶ幹線道路となっている。また、野尻湖や斑尾高原、タングラム斑尾と言った主要観光地へのアクセス道路となっており、信濃町にとって非常に重要な観光道路にもなっている。当該区間は、上水内郡信濃町にあり、新潟県妙高市との県境付近に位置している。この区間は縦断勾配がきつ、曲線部も急なため見通しが悪いのに加え冬季には凍結や積雪が生じることによって、トラックをはじめとする大型自動車等の交通に大きな障害を有している。本事業では、道路の拡幅、によって急峻な勾配を緩和化することを目的とした事業を行う。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり (観光地域としての基盤づくり)	事業実施の根拠法令等	道路法 河川法					
関連する事業、計画等	第六次長野県総合雪対策計画、信越観光圏整備計画 信州みちビジョン Ⅲ-(1)-① リニア中央新幹線や高速道路等を軸とした交通の円滑化							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量: 299台/日							
着手年度	2020(R2)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2024(R6)	費用対効果	1.5		国庫	その他	県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=400m, W=5.5(7.0)m			250,000			225,000 25,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	冬季道幅確保 通行の安全性の向上 災害に強い道路						
	間接的効果(定量的・定性的)	信濃町と新潟県(妙高市等)との地域間流通や交流の向上 広域観光の促進						
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 299台/日 ○代替道路の有無 : 安全性の低い代替道路(信濃斑尾高原線)がある ○医療・福祉・教育施設との連携 : 古海診療所との連携が発揮できる道路(1次アクセス) ○交通結節点アクセス : 妙高高原駅へ直結 ○観光振興・地域の活性化 : 野尻湖、タングラム斑尾、妙高高原、黒姫高原					評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 第六次長野県総合雪対策計画、信越観光圏整備計画、信州みちビジョン ○避難路の路線指定 : 信濃町防災計画 ○地域指定 : 豪雪地帯、信越観光圏					評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.52 ○事業期間 : 5年(R2~R6) ○工法等の比較検討 : 詳細設計時に検討予定 ○他事業との連携 : なし					評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 8件(H27)、1996年人身事故1件(その他毎年1~2件立往生発生) ○道路環境改善 : 道路幅員確保による通行と冬季の安全確保 ○歩道整備 : 計画なし ○現況の幅員、半径、勾配 : 現況車道幅員4.6m 縦断勾配11°					評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(古海地区住民との現地調査の実施(平成27.28.29.30,令和1年8月)) ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている。 ○住民との協働 : 維持管理に住民参加が見込まれる。 ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック: 事後評価5-1					評価	B
	所管課意見	必要性、重要性、効率性が高いことから、事業着手することが妥当であると判断する。					採択状況	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	
	位置図 	平面図 
事業概要説明図表	【整備の必要性がわかる状況写真等】	
	幅員狭小、急カーブ、視通悪 	冬季車両すれちがいが難 
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(主)飯山妙高原線は、長野県飯山市市と新潟県妙高市とを結ぶ重要路線であると同時にI.C(飯山、妙高)と野尻湖や斑尾高原等の観光地を結ぶ観光道路にもなっている。しかしながら、幅員が狭く勾配が急な箇所も見られ冬季には雪の影響により車両の通行の困難化・事故発生と言った障害が発生していることから、安全確保を目的とした道路改良が強く求められている。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	地元住民(古海地区)からの要望があり、平成29年8月には地域住民による合同現地調査が実施された
	③事業説明等の経緯	地域住民による合同現地調査を実施した。今後、沿線住民への事業説明を予定している。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	河川(古海川)や法面等の自然環境に配慮した工法を選定予定(法面工、兼用護岸工)
	⑥地域活性化への影響と配慮	新潟県妙高市側(I.C、妙高原駅)と信濃町観光地(野尻湖、斑尾高原)間の通行利便性の向上。冬季の積雪時期における通行性の確保
	⑦その他	コスト削減については設計段階で検討する。電力施設への影響配慮する。
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N36° 51' 34" 東経:E138° 12'53"

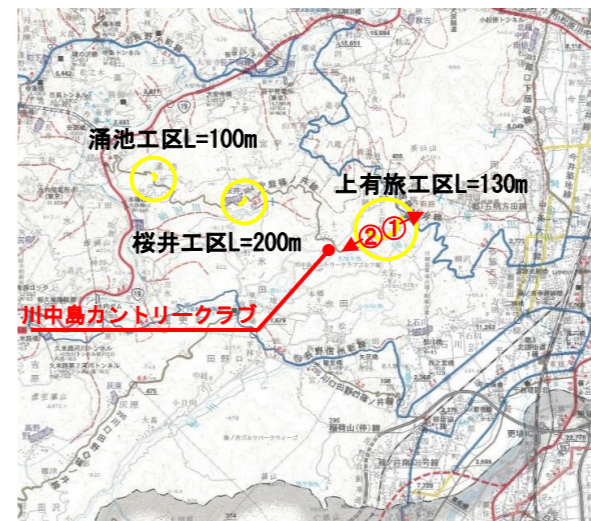
(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

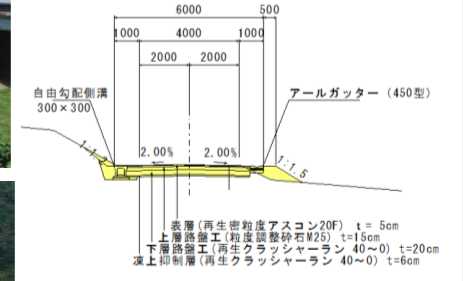
事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(一)安庭篠ノ井線				
事業毎の通番		市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	安庭～上有旅(やすにわ～かみうたび)			
事業目的	当路線は、国道19号と(主)戸隠篠ノ井線を結ぶ路線であり、通勤通学に使われている生活道路でもありながら、幅員が狭く、車同士のすれ違いもままならない状況である。 また、本路線沿いには川中島カントリークラブもあり、利用者が頻繁に通行をしており、観光面でも重要な路線である。 以上から、道路幅員を拡げ、安全の確保を図る。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法				
関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)-② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画自動車交通量:501台/日							
着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2024年度(令和6年度)	費用対効果	1.6		国庫	その他	県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=430.0m、W=4.0(6.0)m			100,000	0	0	90,000 10,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 1800万円 災害に強い道路						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進						
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 501台/日 ○代替道路の有無 : 代替道路あり(30分以上の迂回) ○医療・福祉・教育施設との連携 : 信里小学校へのスクールバスが通行 ○地域の活性化 : 長野市信更地区の活性化に資する					評価	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : しあわせ信州創造プラン、信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 避難経路となる路線 ○地域指定 : 積雪地域					評価	
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.63 ○事業期間 : 5年間 ○代替案の検討 : なし ○他事業との連携 : 他事業との連携はない					評価	
	緊急性	○近年の交通事故件数 : なし ○危険箇所対策 : 危険箇所の該当はなし ○渋滞及び騒音・振動の緩和 : 積雪時すれ違い困難により、交通渋滞が発生した事例あり ○歩道整備 : なし					評価	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 地元要望有、関係地権者同意済 ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 維持管理に住民参加が見込まれる。 ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:事後評価5-1					評価	
所管課意見	必要性、重要性、計画の熟度が高いことから、事業着手することが妥当であると判断する。				採択状況	総合評価		
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

【位置図、平面図、構造図等】

位置図



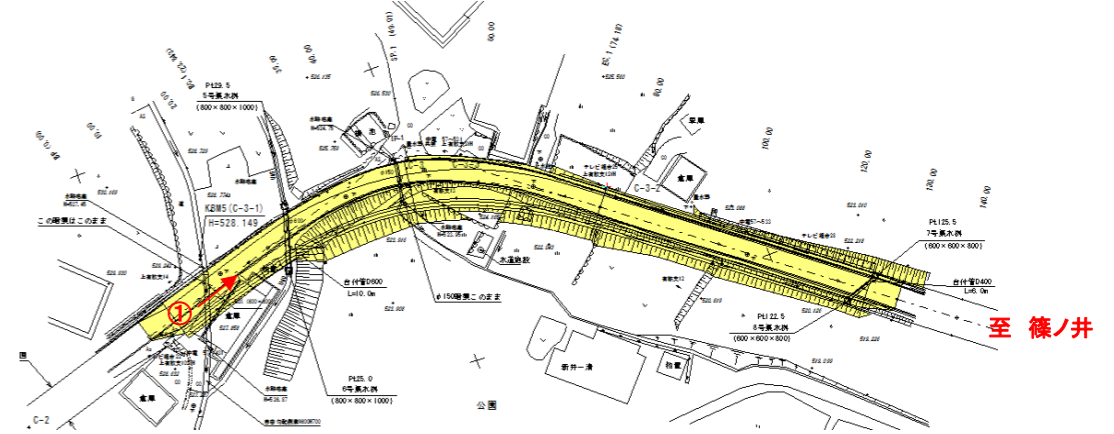
横断面図



【整備の必要性がわかる状況写真等】

平面図

上有旅工区



事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は、国道19号と(主)戸隠篠ノ井線を結ぶ路線であり、通勤通学に使われている生活道路でもありながら、幅員が狭く、車同士のすれ違いもままならない状況である。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	毎年度地元要望(期成同盟会要望)あり。
	③事業説明等の経緯	当該箇所は、道路幅が狭く、すれ違いが困難であるため、道路拡幅を行う必要がある。また、近隣には信里小学校、青池保育園もあるため、園児・児童の安全確保のためにも整備が必要である。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	積雪時にすれ違い困難による交通渋滞が発生する。
	⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、周辺地域の活性化も期待される。
	⑦その他	コスト縮減については、設計段階で検討予定
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 138° 6' 7" 88 東経:E 36° 34' 59" 29

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

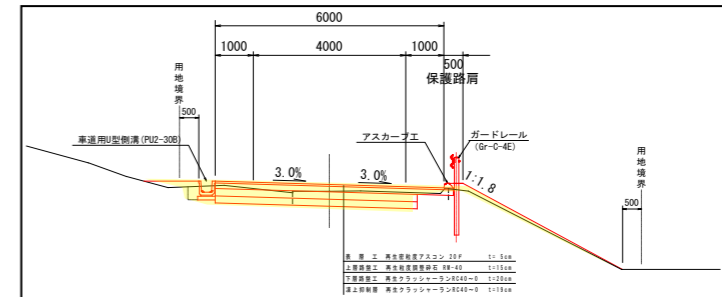
事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(一)小峰稲荷山線		
事業毎の通番	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	田沢(たざわ)		
事業目的	当路線は長野市信州新町小峰地区と千曲市稲荷山地区を結ぶ生活路線であり、長野市西山地区から千曲市へ抜けるための重要路線である。 当箇所は幅員が狭く、大型車が通行する際にはすれ違いも困難な状況であるため、道路拡幅を行い、通行の安全を確保したい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)	事業実施の根拠法令等	道路法			
関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)-② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画自動車交通量:628台/日					
着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2024年度(令和6年度)	費用対効果	1.2		国庫 0 其他 0 県債 90,000 一般財源 10,000	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=450.0m、W=4.0(6.0)m			100,000	0 0 90,000 10,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 800万円 災害に強い道路				
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進				
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 630台/日 ○代替道路の有無 : 代替道路なし(30分以上の迂回) ○医療・福祉・教育施設との連携 : なし ○地域の活性化 : 信更地域の活性化に資する			評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : しあわせ信州創造プラン、信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 避難経路となる路線 ○地域指定 : 積雪地域			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.17 ○事業期間 : 5年間 ○代替案の検討 : なし ○他事業との連携 : 他事業との連携はない			評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : なし ○危険箇所対策 : 危険箇所の該当はなし ○渋滞及び騒音・振動の緩和 : 積雪時すれ違い困難 ○歩道整備 : なし			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 地元要望有、関係地権者同意済 ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 維持管理に住民参加が見込まれる ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:事後評価5-1			評価	A
所管課意見	必要性、重要性、効率性、計画の熟度が高いため、事業着手することが妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

【位置図、平面図、構造図等】

位置図



横断面図



【整備の必要性がわかる状況写真等】

平面図



事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は長野市信州新町小峰地区と千曲市稲荷山地区を結ぶ生活路線であり、長野市西山地区から千曲市へ抜けるための重要路線である。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	毎年度地元要望(期成同盟会要望)あり。
③事業説明等の経緯	令和元年まで本事業箇所の東側工区を施工しており、その際に本箇所についても改良要望がなされていた。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	積雪時にすれ違い困難による交通渋滞発生あり
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、地域の活性化も期待される。
⑦その他	コスト縮減については、設計段階で検討予定
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 2' 13" 96 東経:E 36° 32' 13" 28

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(一)川口田野口篠ノ井線			
事業毎の通番		市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	高野(たかの)		
事業目的	当路線は地域の生活道路となっているとともに、長野市大岡と長野市信更及び長野市新町を結ぶ生活路線となっている。現道は幅員狭小かつ視認不良の区間であり、乗用車同士のすれ違いが困難であるとともに、冬季には凍結によりスリップの危険が高い区間で生活の支障となっている。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 人をひきつける快適な県づくり(生活を支える地域交通の確保)		事業実施の根拠法令等	道路法			
関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)-② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量 700台/日						
着手年度	西暦2020年度(令和2年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	西暦2023年度(令和5年度)	費用対効果	1.5	(千円)	国庫	その他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=400m W=4.0(6.0)m			70,000		63,000 7,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 800万円 幅員狭小かつ視認不良箇所を解消することにより通行の安全性を向上させる。					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 700台/日 ○代替道路の有無 : 代替道路がない(30分以上の迂回) ○医療・福祉・教育施設との連携 : 長野厚生連南長野医療センター新町病院と連携が發揮できる道路(1次アクセス) ○地域の活性化 : 長野厚生連南長野医療センター新町病院、信更支所・大岡支所・新町支所へ通じる道路				評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 長野市の避難経路となる路線 ○地域指定 : 積雪地域				評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.48 ○事業期間 : 4年間 ○代替案の検討 : ローカルルール(1.5車線)を適用 ○他事業との連携 : 他事業との連携はない				評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 事故なし ○危険箇所対策 : 危険箇所の該当はなし ○渋滞及び騒音・振動の緩和 : 朝夕の局所的な渋滞の緩和 ○歩道整備 : 整備なし				評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(H22事業説明会を開催) ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民独自の沿道草刈りの取り組みがある ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:事後評価5-1				評価	A
所管課意見	必要性、重要性、効率性、計画の熟度が高いことから、事業着手することが妥当であると判断する。			採択状況	総合評価		
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	B		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	位置図		平面図		
	事業概要説明図表	至 中条		標準横断面図		
事業周辺環境	【整備の必要性がわかる状況写真等】	至篠ノ井		標準横断面図		
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は地域の生活道路となっているとともに、長野市大岡と長野市新町を結ぶ路線となっている。現道は幅員狭小カーブ区間であるため、乗用車同士のすれ違いが困難であるとともに、冬季には凍結によりスリップの危険性が高い区間で、通行の支障となっている。				
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	毎年期成同盟会から懸案箇所の改善要望が挙げられている。				
	③事業説明等の経緯	H22関係地区の住民への事業説明が完了している。また、期成同盟会では毎年事業について要望されている。				
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし				
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	法面等の自然環境に配慮した工法を選定する。				
	⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、地域の活性化もきたいされる。				
⑦その他	ローカルルール(1.5車線)を適用しコスト削減を図る。					
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。			事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 38' 59" 23 東経:E 137° 59' 27" 55	

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	道路改築事業		路河川名等	(一)牟礼永江線		
事業毎の番号		市町村名	上水内郡飯綱町	箇所名(ふりがな)	川手(かわて)	
事業概要	事業目的	(一)牟礼永江線は、飯綱町と中野市を結ぶ地域間流通に大事な路線であるとともに、通勤通学にも使われ、特に近年は中野飯山ICや新幹線利用のための飯山駅へのアクセス道路としても利用され始めているが、幅員が狭く、車同士のすれ違いもままならない状況であることから、拡幅改良を実施し安全な交通を確保するものである。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり (観光地域としての基盤づくり)	事業実施の根拠法令等	道路法		
	関連する事業、計画等	第七次長野県総合雪対策計画、信越観光圏整備計画 信州みちビジョン Ⅲ-(1)-① リニア中央新幹線や高速道路等を軸とした交通の円滑化				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:1143台/日				
	着手年度	2020(R2)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
	完成年度(見込み)	2028(R10)	費用対効果	2.2		国庫 其他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=1500m, W=5.5(7.0)m		490,000		441,000 49,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 4,100万円 冬季道幅確保し、通行の安全性の向上 災害に強い道路			
		間接的効果(定量的・定性的)	広域観光の促進 地域間流通、交流の促進			
	評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 :1143台/日 ○代替道路の有無 :代替道路がない(30分以上の迂回) ○医療・福祉・教育施設との連携 :北部高校、飯綱中学校(2次アクセス) ○交通結節点アクセス :豊田飯山IC(1次アクセス) ○観光振興・地域の活性化 :斑尾高原、飯綱高原			評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合 :しあわせ信州創造プラン2.0「観光地間道路整備」 第七次長野県総合雪対策 ○避難路の路線指定 : 飯綱町避難経路 ○地域指定 : 信越観光圏、積雪地域			評価	A
効率性		○費用対効果(B/C) : 2.18 ○事業期間 : 9年間 ○工法等の比較検討 : 自然環境に配慮した工法を選定予定 ○他事業との連携 : なし			評価	B
緊急性		○近年の交通事故件数 : 5年以内の事故発生 3件以上 ○道路環境改善 : 道幅確保による通行と冬季の安全確保及び落石危険箇所の解消 ○歩道整備 : 計画なし ○現況の幅員、半径、勾配 : 現況車道幅員5.0m			評価	A
計画熟度		○事業情報の共有 : 関係者中心に周知			評価	B
		○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 関係者を中心に合意形成が図られている ○住民との協働 : 維持管理に住民参加が見込まれる ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:事後評価5-1				
所管課意見	必要性、重要性、緊急性が高いため、事業着手することが妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

【位置図、平面図、構造図等】



【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(一)牟礼永江線は、飯綱町と中野市を結ぶ地域間流通の大事な路線であると同時に、豊田飯山IC、飯山駅へのアクセス道路としての利用が増加している道路である。しかしながら、幅員が狭くすれちがいもままならず、冬期には降雪積雪の影響により車両の通行の困難化といった障害が発生していることから、安全確保を目的とした道路改良が強く求められている。		
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	地元関係者から強い要望ある。		
③事業説明等の経緯	地元役員に事業説明をし、合意形成が図られている。		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	法面など自然環境に配慮した工法を選定予定。		
⑥地域活性化への影響と配慮	豊田飯山IC、飯山駅へのアクセス道路としての通行利便性の向上。 観光道路としての通行利便性の向上。 冬季の積雪時期における通行性の確保。		
⑦その他	コスト縮減については、設計段階で検討予定		
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N36° 46' 31" 東経:E138° 17'45"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(一)信濃斑尾高原線					
事業毎の通番		市町村名	上水内郡信濃町	箇所名(ふりがな)	小本道(こほんどう)				
事業概要	事業目的	(一)信濃斑尾高原線は、信濃町野尻湖を起点として、飯山市斑尾高原を結ぶ観光道路となっている。また、沿線住民にとっては、信濃町中心部へ直結する道路であり、住民にとって非常に重要な生活道路にもなっている。当該区間は、曲線部が急なため見通しが悪いのに加え冬季には凍結や積雪が生じることによって、幅員が狭小となり、交通に大きな障害を有している。本事業では、曲線部の拡幅改良により、安全で円滑な通行を確保する。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり (観光地域としての基盤づくり)	事業実施の根拠法令等	道路法					
	関連する事業、計画等	第六次長野県総合雪対策計画、信越観光圏整備計画 信州みちビジョン I-(1)-② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量: 1090台/日							
	着手年度	2020(R2)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2023(R5)	費用対効果	1.6		国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=200m, W=5.5(10.0)m			80,000			72,000	8,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 700万円 冬期間の道路幅員を確保し、通行の安全性の向上						
		間接的効果(定量的・定性的)	広域観光の促進						
	評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 1090台/日 ○代替道路の有無 : 代替道路があるが安全性が低い ○医療・福祉・教育施設との連携 : 古海診療所(2次アクセス) ○交通結節点アクセス : 妙高高原駅(2次アクセス)、信濃町役場等中心部(2次アクセス) ○観光振興・地域の活性化 : 野尻湖、タングラム斑尾、妙高高原、黒姫高原					評価	A
重要性		○関連計画、重点施策との整合 : 第六次長野県総合雪対策計画、信越観光圏整備計画、信州みちビジョン ○避難路の路線指定 : 避難経路となる路線 ○地域指定 : 豪雪地帯、信越観光圏					評価	A	
効率性		○費用対効果(B/C) : 1.56 ○事業期間 : 4年間 ○代替案の検討 : 法面など自然環境に配慮した工法を選定予定 ○他事業との連携 : 他事業との連携はない					評価	A	
緊急性		○近年の交通事故件数 : なし ○危険箇所対策 : 道幅確保による通行と冬季の安全確保 ○歩道整備 : 計画なし ○現況の幅員、半径、勾配 : 現況車道幅員6.0~7.0m R25拡幅無し					評価	B	
計画熟度		○事業情報の共有 : 古海地区住民との現地調査の実施(平成27,28,29,30,令和1年8月) ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 地区住民との現地調査実施ならびに要望有 ○住民との協働 : 維持管理に住民参加が見込まれる ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック: 事後評価5-1					評価	A	
所管課意見		必要性、重要性、効率性、計画の熟度が高いことから、事業着手することが妥当であると判断する。					採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	B		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手				

【位置図、平面図、構造図等】

位置図

平面図

急カーブ、視通悪

【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(一)信濃斑尾高原線は、野尻湖と斑尾高原を結ぶ観光路線であると同時に、沿線住民の重要な生活道路でもある。しかしながら、急カーブで視通も悪く、冬季には降雪積雪の影響により車両の通行の困難化といった障害が発生していることから、安全確保を目的とした道路改良が強く求められている。		
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	地元住民(古海地区)からの要望があり、令和1年8月には地域住民による合同現地調査が実施された		
③事業説明等の経緯	地元住民への説明により、事業目的、整備手法に合意形成が図られている。		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	自然環境への影響を軽減する工法を採用する。		
⑥地域活性化への影響と配慮	観光道路としての通行利便性の向上。冬季の積雪時期における通行性の確保が期待できる。		
⑦その他	コスト縮減については、設計段階で検討予定		
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。	事業代表地点の緯度経度	北緯: N36° 31' 42" 東経: E138° 13' 28"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(主)戸隠篠ノ井線			
事業毎の通番	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	山布施～上有旅(やまふせ～かみうたび)			
事業目的	当路線は長野市篠ノ井と七二会経由で戸隠までを結ぶ重要路線である。また、国道19号の迂回路としても利用されており、大型車等の通行もある路線である。 当箇所は、道路幅が狭く、すれ違いが困難であるため、道路拡幅を行う必要がある。また、近隣には信里小学校、青池保育園もあるため、園児・児童の安全確保のためにも整備が必要である。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)	事業実施の根拠法令等	道路法				
関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)-② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画自動車交通量:476台/日						
着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2024年度(令和6年度)	費用対効果	1.2	国庫	0	0	180,000
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=800.0m、W=4.0(6.0)m			200,000	0	0	20,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 2,100万円 災害に強い道路					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 476台/日 ○代替道路の有 : 代替道路なし(30分以上の迂回) ○医療・福祉・教育施設との連携 : 信里小学校、青池保育園との連携が発揮できる道路 ○地域の活性化 : 茶臼山動物園へのアクセス道路					評価 A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 避難経路となる路線 ○地域指定 : 積雪地域					評価 A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.19 ○事業期間 : 5年間 ○代替案の検討 : なし ○他事業との連携 : 他事業との連携はない					評価 B
	緊急性	○近年の交通事故件数 : なし ○危険箇所対策 : 危険箇所の該当はなし ○渋滞及び騒音・振動の緩和 : 積雪時すれ違い困難により、交通渋滞が発生した事例あり ○歩道整備 : なし					評価 B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 地元要望有、関係地権者同意済 ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 維持管理に住民の参加が見込まれる ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:事後評価5-1					評価 A
所管課意見	必要性、重要性、計画の熟度が高いことから、事業着手することが妥当であると判断する。				採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

【位置図、平面図、構造図等】		
位置図		
横断面図		
事業概要説明図表		
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は長野市篠ノ井と七二会経由で戸隠までを結ぶ重要路線である。また、国道19号の迂回路としても利用されており、大型車等の通行もある路線である。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	毎年度地元要望(期成同盟会要望)あり。
	③事業説明等の経緯	当該箇所は、道路幅が狭く、すれ違いが困難であるため、道路拡幅を行う必要がある。また、近隣には信里小学校、青池保育園もあるため、園児・児童の安全確保のためにも整備が必要である。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	積雪時にすれ違い困難による交通渋滞発生あり
	⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、地域の活性化も期待される。
	⑦その他	コスト縮減については、設計段階で検討予定
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 138° 6' 1" 69 東経:E 36° 35' 30" 87



(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築事業		路河川名等	(一)入山小市線		
事業毎の通番		市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	上犬飼(かみいぬかい)	
事業目的	(一)入山小市線は、(主)長野戸隠線と(国)406号線を結ぶ地域の中で唯一の県道で、地域住民の生活や流通を支える重要な路線である。 しかし、当該区間は急カーブ急勾配で見通しも悪く、すれ違いも困難であることから、危険な状況となっている。 このことから、拡幅改良により急勾配や線形を改善し、円滑で安全安心な交通を確保したい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 人をひきつける快適な県づくり(生活を支える地域交通の確保)	事業実施の根拠法令等	道路法			
関連する事業、計画等	第7次長野県総合雪対策計画 信州みちビジョン 1-(1)-② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:454台/日					
着手年度	2020年度(R2年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2023年度(R5年度)	費用対効果	2.2		国庫 0 其他 0 県債 63,000 一般財源 7,000	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=200m,W=4.0(6.0)m		70,000	0	0 63,000 7,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 1,400万円 通行の安全性の向上 災害に強い道路				
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進 住民生活の利便性の向上				
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 454台/日 ○代替道路の有無 : 代替道路がない(30分以上の迂回) ○医療・福祉・教育施設との連携 : 芋井小学校、救護施設旭泰との連携が発揮できる道路(2次アクセス) ○地域の活性化 : 観光地の周遊性、連携を高める道路			評価	B
	重要性	○関連計画、重点施策と1つ以上整合 : 信州みちビジョン ○市町村緊急輸送路に指定されている、又は避難経路となる路線である : 避難経路 ○地震防災対策強化地域又は観光圏整備計画に地域指定されている : 信越観光圏整備計画			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 2.24 ○事業期間 : 4年間 ○工法比較検討 : なし(今後の詳細設計で検討予定) ○他事業との連携 : 他事業との連携はない			評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : すれ違い時の接触事故多数(聞き取り) ○危険箇所対策 : 危険箇所指定はないが自然斜面崩落の安定化 ○渋滞及び騒音・振動の緩和 : 渋滞及び騒音・振動の該当はなし ○歩道整備 : 該当なし			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者以外にも周知(改良促進期成同盟会現地調査からの地元伝達) ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(維持管理に住民参加が見込まれる) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価5-1			評価	A
所管課意見	重要性、効率性、計画の熟度が高いことから、事業着手することが妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

**【位置図】**

**【平面図】**

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(一)入山小市線は、(主)長野戸隠線と(国)406号線を結ぶ地域の中で唯一の県道で、地域住民の生活や流通を支える重要な路線であり、落石危険箇所等の防災対策事業を進めている。しかし、当該区間は急カーブ急勾配で見通しも悪く、すれ違いも困難であることから、危険な状況となっている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、急カーブ急勾配で、すれ違いが困難で、時にはスリップにより立ち往生が発生することもある。このことから、入山小市線改良促進期成同盟会を中心に、道路改良を強く要望されている。
③事業説明等の経緯	期成同盟会の現地調査時に概ねの構想を説明し了解されている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	自然環境への影響が軽減される工法を選定する。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化と安全安心が確保され、地域間交流や物流等の促進が期待される。
⑦その他	今後の詳細設計でコスト削減等を踏まえた工法検討を予定

事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 6' 50.3" 東経:E 36° 40' 51.7"
------------------	-------------------------	-------------	--

事業概要説明図表

事業周辺環境